

## 授業改善等に関する報告書（2020 年前期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2020（前期）人間社会学科 現代社会学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
法律学	金津 謙	貴重なご意見ありがとうございます。今後の授業進行に役立てたいと思います。
アジア文化論	高橋 美和	数値としては概ね平均がちょっと上回った程度で、大きな問題はなかったかと思えます。今回、全回Zoomにしましたが、テクニカルな問題は特になく、そこはほっとしています。ただ、40名前後の授業だとチャットでさえ質問が出にくく、それほど双方向の利点が生かせていなかったという反省は残りました。
社会科学データ分析	竹内 光悦	全体的に評価があまり高くなかったのは残念でしたが、自由回答をみても、この科目ではオンデマンドが望ましいと実感しました。人と一緒に学びたい、質問をすぐしたいという意見もありますが、自己学習の意識が低いケースがあり（もちろんこのようなことを書いている回答者がそうというわけではありません）、何となく課題はできるが、一人では結局できないというケースもあり、本講義の課題でもありました。よく「先生が横にいたらできるのに」などと言われたことがあります。それはわかった気になっているだけで、本当の力になっていないケースが多いため、課題と思っていました。それが周りに人がいない、すぐに質問できない環境だからこそ、自分で学ぶ力がついていたように思います。すぐ調べたらわかるような質問が少なく、高いレベルの本質的な質問が多かったように思います。これらは受講生の質の向上につながったように感じます。もちろん理解度などが低いことは課題とは思いますので、次年度以降、意識したいと思います。
英語コミュニケーションⅡA	阿佐美 敦子 ライト, アレックス	授業のスピード、説明のわかりやすさ、双方向授業の工夫、声の聞き取りやすさ等の項目で高い評価をいただけたことを嬉しく思います。一方で、皆さん自身の自己採点が3.61と、やや低めだったことは残念です。後期は自己評価が上がるように授業の工夫をしたいと思います。
学習心理学	栗津 俊二	・全項目(学生自身の自己採点除く)の平均値が4.0程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。
演習ⅢA	高木 裕子	専門ゼミとして初の前期授業であったが、コロナ禍で慣れないZOOM授業で開始したが、概ね目標は達成できたのではないだろうか。しかしながら、全員が全て達成できたわけではないため、後期はより一層内容の充実を目指したい。
演習ⅢA	篠崎 香織	前期は輪読のなかで、担当者がそれぞれ各自の視点で担当箇所の内容を深掘りした事例等を盛り込み、質の高い授業ができました。ただ、あるものを伝えるのではなく、さらにその先を行く姿勢でゼミができたので、それを後期のゼミでも継続して欲しいです。
演習ⅢA	金津 謙	貴重なご意見ありがとうございます。今後の授業進行に役立てたいと思います。
発達心理学	竹内 美香	突然、緊急事態宣言が発出されて、外出自粛要請がされて、大学も遠隔授業を余儀なくされた2020年度の開始でした。本当に信じられないほどの苦労に学生・教職員、全員が直面しました。 この科目は、前期の突然の「遠隔化」で受講生の情報環境の個人差が大きい状況に鑑みて、完全オンデマンドで進めました。「対面・双方向であるべき」との回答を見ます。不安も大きかったと思います。担当者自身も、そのように思っていました。対面授業ができることは幸せなことと痛感した次第です。受講者の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。 少し提出回数が多くなりました課題では「発達心理学」に相応しい問題も出しました。しかしこのことで、むしろ対面講義ではできないこと「遠隔だからできる学びの充実もある」と担当教員は気づきました。皆さんの提出された課題は、それぞれが努力し、工夫して、価値のあるものになっていましたからです。 さて、これを書いている2020後期開始時点でも、世界の感染症の情勢は大きな改善はないようです。しばらくかかるのかもしれませんが、しかし皆さんは、感染予防の対策を忘れないようにして、さらに学びを続けてください。
演習ⅢA	栗津 俊二	全項目(学生自身の自己採点除く)の平均値が4.5程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。双方向はやりにくいところもありましたが、なんとか頑張りましょう。
演習ⅢA	原田 謙	スピード、説明のわかりやすさ、双方向授業の工夫、聞き取りやすさは4.7点を超えており、比較的高評価だったようです。皆さんの「自己採点(成績評価)」より、私がつけた評価の方が高かったようです(今年は控えめの学生が多いのでしょうか?)。オンライン授業という制約はありますが、後期は、それを補って余りあるPBLにしましょう!

【2020（前期）人間社会学科 現代社会学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習Ⅲ A	広井 多鶴子	zoom授業での発表でしたが、みなさんよく課題に取り組んでくれました。画面共有を使ったPowerPointの発表もよく工夫されていたと思います。そのため、授業を通じて自分の成長を感じられたという人が多く、自己評価と授業の満足度も高くなっています。この調子で、ぜひ後期の演習も取組んでください。
演習Ⅲ A	谷内 篤博	本ゼミを通じてゼミ生が成長を実感しているようで、ゼミとしての効果があったかと思う。Zoomや時折の対面でじっくり学習できたことがよかったと思う。
演習Ⅲ A	標葉 靖子	回答者が3名と少ないですが、後期からは卒論のテーマに向けた検討も始まりますので、個別面談やゼミ、slack等でこまめにフィードバックを行って行きたいと思います。何かあれば遠慮せず直接質問・意見等ください。
情報社会論	駒谷 真美	本講義は、情報社会の根幹を理論的に追究する難易度の高い講義内容である。特に今期から、PBL (Project based learning) ・アクティブラーニング・ピアラーニングの手法を取り入れて、履修生全員が主体的に参加する形態である。その結果、履修生は次第に自分たちの視点でグループディスカッションとプレゼンを行えるまでになっていた。アンケートでは、全15項目において全体平均と当該区分平均を上回る評価を得たことは、大変有難い。履修生の真摯に取り組む姿が、PBL・アクティブラーニング・ピアラーニングで促進され、本講義の目的である「クリティカル・シンキングの基盤となるメディア情報リテラシー (Media and Information Literacy, MIL) の育成」に繋がったと考える。
演習Ⅳ A	篠崎 香織	4年生のゼミは卒業論文に向けて、各自がどこまでやってきたかでゼミの時間が有意義さが変わります。それを自覚して有効に使うようにしてください。 後期も毎回司会をたてますので、積極的に担当するようにお願いします。
演習Ⅳ A	高木 裕子	就活、卒業論文と忙しい中で、回答数は少ないものの、しっかり学んでいたことがわかる。就活も終わり、後は卒業論文のみとなっている者も多いことから、いい論文が執筆できるように努力したい。
情報セキュリティ	駒谷 真美	この講義は本年度から「情報セキュリティ」となり、内容を一新している。Society 5.0 (ICTを活用し多様な人々が想像と創造する社会) を生き抜くために、前半は、最新の情報セキュリティ・情報倫理の基礎を学修し、知識の定着に基づいたソーシャルメディアコミュニケーション (SMC) のスキルを促進した。後半は、企業における情報セキュリティ対策について、PBLに基づくワークショップ形式で課題解決のスキルを体得した。具体的には日経BP社の協力を得て、「コロナ禍における東京ゲームショウのオンライン化」について、チームで第一次提案を行い企業からフィードバックを頂戴し、最終提案まで完成し、企業から高評価を得ることができた。 その結果、ZOOM講義でも、履修生自身の理解度や自己採点がかかなり高く、「成長を実感できた」「さらに専門的に学びたい」「授業に満足している」と、全10項目において全体平均と当該区分平均を上回る評価を得たことは、大変喜ばしい。
演習Ⅳ A	標葉 靖子	回答者が3名と少ないですが、個別面談やゼミ、slack等でこまめにフィードバックを行って行きたいと思います。何かあれば遠慮せず直接質問・意見等ください。卒論ラストスパートに向けて頑張ってください。
演習Ⅳ A	粟津 俊二	回答者数が4でした。「シラバスとの一致度」以外は回答の平均値が4.0程度以上でしたので、授業内容等に特に問題は無いと考えます。シラバスや授業方法はコロナ対応で変えたところがあるので、ある程度は仕方ないかなと思っています。
演習Ⅳ A	原田 謙	内容と方法の4項目で5点、総合的な満足度も4.88点と、比較的高評価だったようです。発表者がきちんと準備してくれたおかげで、対面授業と変わらないクオリティを確保できました。最後の半年、自分の成長が実感できるような卒論を仕上げましょう。
演習Ⅳ A	広井 多鶴子	就活がオンラインになったためか、これまでになく授業への出席率がよく、みなさんしっかりと課題に取り組んでくれました。授業を通じて自分の成長を感じられたという人も多く、自己評価と授業の満足度も比較的高くなっています。この調子で、ぜひ卒論執筆に取り組んでください。私も卒論に向けて、できる限りのサポートをしていきたいと思っています。
演習Ⅳ A	谷内 篤博	全体的にゼミ生各自が成長を実感しており、指導者としては喜びを感じる。Zoomと対面で各自の卒論の進捗に応じた個の指導とゼミとしての集団学習の双方を実施したことがよかったようである。

[2020（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
簿記論 I	蔣 飛鴻	今回はリモート授業のため、例年の対面授業よりかなり低い評価となっている部分があります。この点について反省し、今後双方向の授業の回数を増やして、授業の進め方を改善していきたいと思ひます。ご回答どうもありがとうございました。
国際NGO論	神山 静香	授業に理解度について、アンケートの回答者の90%から肯定的な評価をいただき、また、その他の項目でも肯定的な評価をいただきありがとうございます。急遽、オンライン授業となったため、課題の分量が多かったとの意見がありました。この点については次年度の改善点としたいと思ひます。
調査・実験データ処理法	竹内 光悦	理解度が平均と比べると高くない点は気になりますが、工夫の点や満足度の点では高めになっており、ほっとしています。自由回答もオンデマンド型に好意的な意見が多く、こちらもちよつと安心しました。
演習 II A	竹内 美香	突然、緊急事態宣言が発出されて、外出自粛要請がされて、大学も遠隔授業を余儀なくされた2020年度の開始でした。本当に信じられないほどの苦勞に学生・教職員、全員が直面しました。 どうなることかと思ひましたが、それでも大学は授業を止めるのではなく（まして諦めることもしないで）、メディアを駆使して皆さんと学ぶことを続けました。学生の皆さんの努力がなかったら、教職員がどんなに頑張っても、大学の授業は実施できなかったと思ひます。ご努力に感謝いたします。 そして教員の私にとつてもメディア授業は初めての取り組みとなりました。最初は「遠隔型ではできないこと」を嘆いて教えていましたが、皆さんが一つ一つ努力して下さるので「遠隔だからできることがある」と気づきましたし、たくさんの経験とスキルを一緒に獲得することができました。 演習で取り組んで頂いた数々の課題に対するアンケート回答では、概ね「納得解」まで到達出来た様子ですので安堵しました。 これを書いている後期開始時点でも、世界の感染症の情勢は大きな改善はないようです。しばらくかかるのかもしれないですが、私たちは学びを止めることはできません。感染予防の対策を忘れないようにして、さらに学びを続けましょう。 皆さんは、とても真摯に誠実に課題に取り組んで下さったと思ひます。提出された課題もよく書いていました。尊敬します。ここで取り組んだことを自信にして、さらに後期も学び続けてください。
演習 II A	谷内 篤博	この演習は、事前の課題に2人1組でパワポで発表して、その後司会者を決め、議論する方式で展開した。各自がゼミを通じて成長したことを実感するとともに、授業への満足度も4.5と高く、それなりの効果があったものと実感している。
演習 II A	原田 謙	スピード、双方向授業の工夫、配布資料のわかりやすさ、聞き取りやすさの評価は、すべて4.7点を超えており、総合評価も4.67点と比較的高評価でした。とくに、レジュメの作成やプレゼン方法など「自分の成長」を実感してくれたようです。ぜひ学んだ方法を、他の授業でも活かしてください。
演習 II A	篠崎 香織	専門ゼミ（演習Ⅲ、演習Ⅳ）が始まる前の大事な時期に、再度レポートの書き方や、1つのテーマについて深掘りする機会となる授業が行えました（例えば、SDGs）。 課題に対して、皆さんがしっかり下調べをして臨んでくれたので、全体的に内容の濃い授業を展開することができました。Zoomでの授業ではグループワークを多く行ったので、積極的に発言する機会になったと思ひます。
演習 II A	高橋 美和	オンデマンドと双方向の組み合わせ授業でしたが、コメントからもそれは成功したようです。「レポートの書きかたがよくわかった」や、毎回の課題への個人へのフィードバックも「もらえてよかった」のコメントが多数ありました。ただ、1週間の課題として多すぎた（期間が短すぎた）ところが、特に後半のグループワークになってからはあったようで、そこは時間配分に反省が残りました。でも、皆さんよくついてきてくれました！すばらしいクラスでした。
演習 II A	松浦 常夫	個別指導コレクションを活用すべきでしたね。
演習 II A	高木 裕子	コロナ禍での22名対象の初ZOOMで、どのように目標が達成できるのか、また、対面授業と同じような学習効果が得られるのか、試行錯誤の授業であったが、概ね目標は達成できたと考える。ただし、対面ではなかった部分で、反応がつかめず、対面との違いも強く感じた。それでも皆さんはよく学習して下さったと思ひている。

[2020（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
国際関係概論	神山 静香	zoomによる双方向授業ではチャット機能を活用して、授業中に意見や質問が出るなど、対面型の授業以上に双方向での授業が実施できたように思います。初めて学ぶ分野だという人も多いため、今回、zoomによる双方向型の授業としましたが、授業内容の理解の点から、この授業形態で良かったとのコメントもあり、ほとんどの項目で、概ね肯定的な評価をいただきありがとうございます。急遽、オンライン授業となったことによる不備もありましたので、指摘のあった点については、次年度の改善点としたいと思います。
人材開発論	谷内 篤博	Zoomで授業を行い、わかりやすく、途中で質問タイムなどを設定して工夫して授業を展開したのだが、まだ説明がやや分かりにくかったようである。かなりの専門的な授業であるので専門用語が多く、次年度以降は専門用語をわかりやすく解説をしたうえで授業を展開していきたい。
社会調査概論	竹内 光悦	やや理解度については、平均と比べると高くはなかったですが、授業工夫に関しては高めになっており、よかったです。急なりモート授業となりましたが、受講生のみなさんの協力もあり、なんとかいつもの受講環境がある程度、構築できたかなと思います。早口になる点は特に今回のようにリモートだとみなさんの姿が見えなかったこともあり、いつも以上になっていたかもしれません。respon 等の工夫については好意的な意見もあり、今後の参考にします。
人的資源管理	谷内 篤博	全体的に授業スピードが早く、説明が分かりにくかったようで、大いに反省するところである。Zoomで、質問タイムを設定するなどしたが、かなりの専門的な授業であるためか、わかりにくかったようである。次年度以降は、少し授業のスピードを落とし、質問タイムなどをもっと増やし、学生サイドに立った授業を展開したい。
社会言語学	高木 裕子	開始時にはPDF版で学習内容（教科書の抜粋）を準備し、それを使い授業を進め、途中からは教科書購入ができた段階でそちらへ切り替えたが、それでも画面共有や確認用の配布資料は必要だったようだ。その分を今回は例年より課題を多く課し、その課題を行いながら内容理解ができ、批判的な見方が身に付くように努めた。また、インタビュー調査や質的分析も180名以上を対象に何とか理解・できるように頑張ったが、CM分析・インタビュー調査とさぞかし大変だったろう。自身も毎回、膨大なレポートを読むのは大変であった。180人以上ということはこれまでない学生数だけに、それでも学べるものがあつたことは幸いだった。データダイエットに努めるより、コロナ禍では授業内容を理解させるための方法論の開発が必要だったと感じた。
文化人類学	高橋 美和	異文化理解の重要性、世界の多様な文化の存在などへの理解が深まったというコメントを多くいただきました。 ただ、多少難しい単元があつたせいか、あるいは授業後課題はやや難しめだったからか、「わかりやすさ」が平均を若干下回りました。また、全回Zoom双方向で実施しましたが、オンデマンド/オンデマンド+双方向の方がふさわしいという回答が多かったことで、双方向授業の利点があり生かしていなかったという反省があります。一方で、質問しやすいから双方向でよかったというコメントもありました。
消費者保護論	金津 謙	貴重なご意見ありがとうございます。今後の授業進行に役立てたいと思います。
演習Ⅲ A	竹内 美香	突然、緊急事態宣言が発出されて、外出自粛要請がされて、大学も遠隔授業を余儀なくされた2020年度の開始でした。本当に信じられないほどの苦勞に学生・教職員、全員が直面しました。 どうなることかと思いましたが、それでも大学は授業を止めるのではなく（まして諦めることもしないで）、メディアを駆使して皆さんと学ぶことを続けました。学生の皆さんの努力がなかったら、教職員がどんなに頑張っても、大学の授業は実施できなかったと思います。ご努力に感謝いたします。 そして教員の私にとってもメディア授業は初めての取り組みとなりました。最初は「遠隔型ではできないこと」を嘆いて教えていたのですが、ゼミの皆さんが一つ一つ努力してくださるので「遠隔だからできることがある」と気づきましたし、たくさんの経験とスキルを一緒に獲得することができました。 メディア授業だからこそ丁寧に取り組んで頂けたのは、何と言っても調査データの基礎解析処理についてExcelシートをどのように扱ったらよいか、自分の力で実習し学んで頂く部分です。これは今までのゼミでできんかったと思っても、充分実現できていなかった取り組みでした。そのために新しくテキストを書きましたが、今後の卒業研究にも必須のテクニックをお伝えする内容ですから、時々復習してみてください。 これを書いている2020後期開始時点でも、世界の感染症の情勢は大きな改善はないようです。しばらくかかるのかもしれませんが、私たちは学びを止めることはできません。感染予防の対策を忘れないようにして、さらに学びを続けましょう。 皆さんは、とても真摯に誠実に課題に取り組んでくださっていると思います。これから卒業研究に向けてさらに課題が生起して来ますが、さらに後期も学び続けましょう。

[2020（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習Ⅲ A	阿佐美 敦子	「授業を通じて成長を実感できた」「授業に満足した」との回答が共に100%であったことを、とてもとても嬉しく思います。後期もそのように感じていただけるように頑張ります。
演習Ⅲ A	角本 伸晃	今年はコロナの影響で、はじめから遠隔授業となり、履修者の皆さんには大変不便をかせてしまいました。特に、学外コンテストの参加と東京サマーランド様との産学連携がストップしてしまいました。そのような中で、問い15の総合評価で4.57と高い評価を得たことは今後の励みになります。後期の演習ⅢBでは、Zoomでの産学連携を予定しました。
演習Ⅲ A	駒谷 真美	今期のゼミ生は、コロナ禍においてもZOOMの双方向演習で活発に参加してくれた。講義開始早々、大学公認ラジオプロジェクト「JJ Campus Voice!!」やテレビ朝日の企画など学内外の行事に相次いで参加した。そのような中で、自分の卒論テーマについて先行研究や文献にあたり、最終的にオリジナリティに富んだテーマを選定できていた。この試行錯誤のプロセスを体験したことで、今後の卒論や就活活動に際してのレジリエンスにつながってくれると思う。 今期は、本講義の最終回まで「卒論テーマ討論会」「卒論序論1st draft執筆」を行ったので、ゼミ生はプレゼン準備とプレゼン後のdraftに積極的に取り組んでいた。アンケートの結果で「専門的な学びをしていきたい」と高い意欲を示してくれたので、ゼミ生の今後の成長が楽しみである。
演習Ⅲ A	時田 朋子	初めての専門ゼミがオンラインで戸惑いもあったと思います。しかし、活発なディスカッションができ、皆さん成長しました。後期も引き続きがんばりましょう。
メディア社会論	駒谷 真美	「アンケート回答率」が83.1%（71人中59人回答）であった。履修学生は、5時間目で疲れている状態にもかかわらず、最後まで真面目にかつ積極的に取り組んでくれた。特に、アドミュージアム東京の公共広告とコロナ禍の災害報道レポートを課題にしたが、果敢に参加してくれた。その結果、大人数のZOOM講義でも、全10項目において全体平均と当該区分平均を上回る評価を得たことは、大変喜ばしく、今後の励みとしたい。
行動科学	松浦 常夫	プリントと解説で理解できた学生とできない学生がいました。感想文以外の課題が必要だったかもしれません。
企業戦略論	吉田 雅彦	オンライン授業で制約がありましたが、自分の成長を感じた学生さんが多くて良かったです。
演習Ⅳ A	阿佐美 敦子	履修者13名に対して、回答者が4名に留まってしまい、周知が十分でなかったことを反省しています。正確な調査結果にはなっていないと考えられます。
演習Ⅳ A	角本 伸晃	コロナの影響で、オンデマンドでの卒論指導となりました。そのため、細部に行き届いた指導ができていなかったもので、後期の演習ⅣBでは双方向も取り入れて工夫したいと思います。
演習Ⅳ A	竹内 美香	突然、緊急事態宣言が発出されて、外出自粛要請がされて、大学も遠隔授業を余儀なくされた2020年度の開始でした。本当に信じられないほどの苦勞に学生・教職員、全員が直面しました。 どうなることかと思いましたが、それでも大学は授業を止めるのではなく（まして諦めることもしないで）、メディアを駆使して皆さんと学ぶことを続けました。学生の皆さんの努力がなかったら、教職員がどんなに頑張っても、大学の授業は実施できなかったと思います。ご努力に感謝いたします。 そして教員の私にとってもメディア授業は初めての取り組みとなりました。最初は「遠隔型ではできないこと」を嘆いて教えていましたが、ゼミの皆さんが一つ一つ努力してくださるので「遠隔だからできることがある」と気づきましたし、たくさんの経験とスキルを一緒に獲得することができました。 メディア授業となってしまった利点もありましたね。いつも紙ベースで実施していた卒論調査をGoogleFormで実施できたのは、後輩さんたちのアクセス回答率が高かったからです。これは後輩さんに感謝です。しかしこれを実施するための前提には、いきなりGoogleFormでの準備を指示された難関をクリアすることでした。難関突破したのは、きちんと対応したメンバー一人一人の努力です。ゼミ史に残る努力と成果と言うべきです。3年生の時からゼミで積み重ねた知識やスキル、仲間支援の態勢も大きな価値でした。つまり卒業研究のための下準備が大きな意味を持っていたと思います。 さて、これを書いている2020後期開始時点でも、世界の感染症の情勢は大きな改善はないようです。しばらくかかるのかもしれませんが、しかし皆さんは、感染予防の対策を忘れないようにして、さらにデータを十分に解析して卒業論文を仕上げてください。 皆さんは、とても真摯に誠実に課題に取り組んでくださっていると思います。自信をもって、執筆に励んでください。一緒に頑張ります。

【2020（前期）人間社会学科 現代社会学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習Ⅳ A	時田 朋子	卒論に向けて、後期もがんばりましょう。
心理学概論	竹内 美香	<p>突然、緊急事態宣言が発出されて、外出自粛要請がされて、大学も遠隔授業を余儀なくされた2020年度の開始でした。本当に信じられないほどの苦勞に新入生・在学生・教職員、全員が直面しました。</p> <p>この科目は、前期の突然の「遠隔化」で受講生の情報環境の個人差が大きい状況に鑑みて、完全オンデマンドで進めました。「対面・双方向であるべき」との回答を見ます。特に新入生は不安も大きかったと思います。担当者自身も、そのように思っていました。対面授業ができることは幸せなことと強く痛感した次第です。受講者の皆様のご協力には深く感謝申し上げます。</p> <p>少し提出回数が多くなりました課題では「心理学概論」に相応しい問題を出していました。しかしこのやり方で、むしろ対面講義ではできないこと「遠隔だからできる学びの充実もある」と担当教員は気づいたのでした。皆さんの提出された課題は、それぞれが努力し、工夫していて、価値のあるものになっていたからです。</p> <p>さて、これを書いている2020後期開始時点でも、世界の感染症の情勢は大きな改善はないようです。もうしばらくかかるのかもしれませんが。しかし皆さんは、感染予防の対策を忘れないようにして、さらに学びを続けてください。今の学びが、たとえ臨時措置的に始まったメディア授業で行われているとしても、大学生の大切な時間の取り組みである価値に変わりはありません。</p> <p>必ず意味のある取り組みです。信じて、また一緒に頑張りましょう。</p>
家族社会学	広井 多鶴子	はじめてのオンデマンド授業のため、授業の内容や課題の分量が心配でしたが、81.9%の人が授業が理解できたと答え、授業のスピード、分かりやすさ、自分の成長などという点で平均以上の回答を得られました。授業の満足度も高く、ホッとしています。みなさんがよく課題に取り組んでくれた成果だと思います。
地域社会学	原田 謙	成績評価の分布は、+A6.6%、A37.7%、B45.9%、C4.9%、不合格4.9%になりました。スピード、説明のわかりやすさ、配布資料のわかりやすさは、4.6点を超過しており、総合的な満足度も4.6点と比較的高評価だったようです。自由記述では、オンデマンド型授業のメリットも指摘されていて、とても参考になりました。
社会学概論	原田 謙	皆さんの成績評価は、Bが最も多く、以降A、C、+Aの順になりました。オンデマンド型の授業でしたが、スピードや話の分かりやすさ、配布資料のわかりやすさは4.5点を超過しており、比較的高評価だったようです。来年は、「社会学を専門的に学びたい」と思ってもらう仕掛けを増やします。
コミュニケーション概論	高木 裕子	コロナ禍での1年生の初クラス、この授業は教科書もない中、課題を解きながら学習内容を理解していくという形態は、対面とは違い難しかったと思う。途中、映像を見ることや内容理解のための資料もアップしたが、大学生活にも慣れていない段階ではそれも難しかっただろう。また、レポートの書き方も未学習、提出もメールにしたことが混乱したかもしれない。自身も学生の顔が全員見られなかったため、反応がわからず、進めることも難しかった。
英語コミュニケーションⅡ A	阿佐美 敦子 マルチェフ、ミレン・アングロフ	91.1%の方が「この科目をもっと学びたい」と答えてくださったことを、大変嬉しく思います。その気持ちがさらに強く、ずっと続くように、授業の工夫をしていきます。
英語コミュニケーションⅡ A	シオティーノ、アン 時田 朋子	オンライン授業でしたが、皆さんががんばりましたね。後期も引き続きがんばりましょう。
演習Ⅲ A	蔣 飛鴻	総合評価では全体平均の4.18に対して、この科目は4.29と高くなっており、すべての項目においても平均をかなり上回っています。今後もよい講義を継続できればと思います。
演習Ⅱ A	栗津 俊二	全項目(学生自身の自己採点除く)の平均値が4.0程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。少し課題が多かったかもしれませんが、平均学習時間を見ると妥当な量にも思えます。少し工夫するようにします。
演習Ⅱ A	吉田 雅彦	オンライン授業の制約の中でしたが、自分でテーマ設定して、PowerPointのスライドを作り、それに自分の音声を載せるところまで完成させ、友達のプレゼンにも良いコメントができました。
演習Ⅱ A	数野 昌三	演習Ⅱ Aにおいて培った力を演習Ⅱ Bへ継続させ、自分自身の希望する専門ゼミ選択へと繋げていって下さい。
演習Ⅲ A	井上 綾野	企業見学や他大学との学びを深める機会を失ったことで、新しい取り組みに大きく舵を切れたことはとてもよかったと思います。この取り組みを後期につなげていただければと思います。



【2020（前期）人間社会学科 現代社会学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
演習Ⅲ A	神山 静香	ほとんどの項目で肯定的な評価をいただき、ありがとうございます。授業を通じた成長が実感できたとの項目で肯定的な回答があり嬉しく思います。急遽、zoomによるオンライン授業になりましたが、受講者の皆さんが協力的に進めてくれたことに感謝しています。内容の理解度において、対面によるゼミが実施できなかったことにより課題が残ったと思います。今後も皆さんが主体となってゼミ活動を行うことができるよう、一人ひとりとコミュニケーションをとり、サポートをしていきたいと思ひます。
経済発展論	角本 伸晃	コロナの影響でオンデマンド授業となり、履修者の皆さんに理論的な説明をわかりやすくできていないことを残念に思ひます。しかし、問い15の総合評価で4.22と平均以上の評価を得たことは来年お励みになります。
演習Ⅳ A	蔦 飛鴻	11問この授業を通じて、自身の成長が実感できましたか 以上の質問については、受講生の自己評価がかなり控えめで、もっと自信をもってほしいです。 今回はZoomによる授業を行いました。これからもっと工夫をして進めていきたいと思ひます。
経営組織論	篠崎 香織	組織を通して、結局何をみているのか（人の持っている力）、それをどのように活用していくのかを学べたと思ひます。見えるようで見えないものを扱っているの、わかりやすい部分と理解するのが用意でない部分があったかもしれません。想像力が必要な学問でもあるので、想像力をもってこれからは様々な組織を観察し、どのような仕組みで、どのような機能を果たしているか考え続けて欲しいです。
メディア・コミュニケーション論	標葉 靖子	難しかったとのコメントもありますが、知らない概念や用語が出てきたときにきちんと自分で調べ、課題やアクションペーパーで質問することで、「より深い理解につながった」、「さらに学びたくなった」とのコメントをくれた学生が一定数いることをとても嬉しく思ひます。本講義に限らず、大学の講義というのはただ漫然と聴くだけで100%内容が理解できるものではありません。今後も難しい内容を放置せず主体的に学修していくことで、より多くを学んでいってください。期待しています。 授業の実施方法については、75%の学生がオンデマンド型（今回の実施方法）が一番相応しいとの回答でした。全編オンデマンドではありましたが、一方通行にならないような課題やフィードバックの工夫がきちんと機能していたことの表れではないかと思ひます。一方で、双方向型や対面との意見もあることから、オフィスアワーの周知や希望者へのリアルタイムでの対応等を今後の課題としたいと思ひます。
心理学研究法	松浦 常夫	「用語や概念を、学ぶことは、先生がまとめてくださった資料によって理解可能でした」とあり、ホットしました。
演習Ⅳ A	井上 綾野	就職活動のスケジュールがうまく読めない中で、卒論にしっかりと取り組めていたと思ひます。卒論が完成するように頑張りましょう。
演習Ⅳ A	神山 静香	すべての項目で、回答者の100%から肯定的な評価やコメントを頂きました。ありがとうございます。急遽、オンライン授業となったことにより、指導が十分でなかった点もあると思ひますが、次年度に向けて改善すべき点は改善し、履修者の皆さんにとって、満足度の高い授業を実施できるよう努力していきたいと思ひます。
演習Ⅳ A	数野 昌三	毎週月曜日には出勤しているので、卒業論文指導を受け、11月末には全員、卒業論文を完成するよう、ともにファイトでいきましょう。
人間社会学総論	広井 多鶴子、谷内 篤博 竹内 美香、角本 伸晃 駒谷 真美、高橋 美和 神山 静香、井上 綾野	この授業は「人間社会学部入門」という位置づけの科目です。みなさんはこの学部について理解が深まったでしょうか。今年度はこれまで以上に多くの先生方に登場してもらいました。みなさんの授業評価は、他の授業とあまり変わらない平均的な評価でしたが、自由記述欄には「様々な分野を学べた」「人間社会学部について知ることができた」「学科選択の参考になった」といった声が多く寄せられました。しかし、その一方で、課題が多かった、授業にバラつきが合ったなどの意見もありました。来年度はさらに工夫して、この授業を通じて、みなさんの学部に関する理解が進むようにしていきたいと思ひます。 なお、希望する授業形態に関しては、双方向型（zoom）35%、オンデマンド＋双方向28%、対面24%、オンデマンド12%という結果でした。

[2020（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
リーダーシップ開発B	標葉 靖子	アンケート回答ありがとうございます。プロジェクト活動をオンラインで行うということもあり、対面とは異なる環境で苦労も多かったと思いますが、シラバスに記載している授業目標は無事達成できたのではないかと思います。皆さんこの経験を次に活かしていきましょう。
経済法	金津 謙	貴重なご意見ありがとうございます。今後の授業進行に役立てたいと思います。
産業心理学	松浦 常夫	「講義内容に沿った問いや具体例について考えるような課題があると、より理解が深まって良いのではないかと思った。」とありましたが、次回はそうしましょう。
経営学概論	篠崎 香織	大学での授業がいきなりオンデマンド授業で戸惑うなか、本当によくついてきてくれました。ありがとうございました。 皆さんと経営、経営学がとても近いところにあることを感じてもらうように、また関心が深まるような授業を心がけました。 知識が身についたということはもとより、深く考えるようになった、自分から調べる習慣がついたという感想も多く、各自が根気よく学ぶ姿勢が前期にうちに身についたことがわかります。 これからその姿勢を大事にしてください。
キャリア・デザイン論	吉田 雅彦	進路、就活に向けて成長を実感できた人が多くて良かったです。
発達臨床心理学	佐藤 恵美	佐藤です。 今年度はオンデマンド授業であるにも関わらず、好意的な評価をいただきましたことにお礼を申し上げます。公認心理師指定科目であるため、資料だけを渡して理解していただけるかかなり悩むこともございましたが、比較的良い評価にほっとしております。 私自身初めての試みだったため、小テストやレポートでは皆さんも戸惑われた人も多かったと思います。何より、自分がmanabalになれていなかったの、皆さんのご厚意はありがたく存じます。 早く平和な日があることを望みます。ありがとうございました。
産業経済論	山本 匡毅	本授業は、受講生の皆さんに産業経済の理解を深めることを狙いとし、オンデマンド講義という制約された環境の下でしたが、可能な限り分かりやすい講義を心がけるようにしました。  アンケートを見ると、「授業の内容と方法」については全体平均以上の過大な評価をいただきました。ただ授業内容の理解で「どちらとも言えない」方がいたことは反省点です。秋学期以降は授業画面に顔を出し、受講生の皆さんに教員の顔が見える授業を心がけるとともに、質問にも授業内で答えるなどの双方向性を高めます。  全体では「総合的な授業満足」が低い結果となってしまいました。これは担当教員の責任です。上記の改善から総合評価も高まるように努めて参ります。  今回、自由記述で「毎回授業骨子や授業資料を作ってください、とても学びやすかった。」「オンデマンド型なのに動画での説明がとても分かり易かったです。」とあったことは、オンデマンド講義であっても、一定の満足度を得ていただいたものと考えております。秋学期は、先にも述べたように一層の授業改善に取り組み、更なる学修しやすい授業展開を進めて参ります。
マーケティング論	井上 綾野	Googleスライドの使い方や人工音声聞き取りにくい等、様々な点でご迷惑をおかけしたかもしれません。今後、オンライン授業が続くようであれば、これらの点を踏まえて改善したいと思います。
経営分析論	蔣 飛鴻	今回はリモート授業のため、例年の対面授業よりかなり低い評価となっている部分があります。この点について反省し、今後双方向の授業の回数を増やして、授業の進め方を改善していきたいと思っております。ご回答どうもありがとうございました。
経済学概論	吉田 雅彦	教科書の手配の遅れやオンラインなどの困難はありましたが、経済学の基礎をしっかりと学んで、3/4くらいの人は身についたと感じてもらえたようです。今回難しかった人も、これからの授業で関連することに当たると思いますので、今回の教科書で何回もおさらいをしてもらえるとうれしいです。
会計学総論 I	蔣 飛鴻	今回はリモート授業のため、例年の対面授業よりかなり低い評価となっている部分があります。この点について反省し、今後双方向の授業の回数を増やして、授業の進め方を改善していきたいと思っております。ご回答どうもありがとうございました。

【2020（前期）人間社会学科 現代社会学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
心理学実験 I	粟津 俊二	全項目(学生自身の自己採点除く)の平均値が4.0程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。なかなかへビーな課題をしてもらいましたので、平均学習時間もそれなりに長くなっています。皆さん、なかなか頑張ったと思います。
社会調査実習 I	竹内 光悦	おおむね各項目の数値はよかったですね。自由回答では対面希望が数名ありましたが、無回答者をどうとらえるかで悩ましいですね。少なくとも(比較すれば対面がいいと思っても)書くまでもなく対面でもなんとなかったと考えられるとも思えるかもしれないとも思います。課題についても一人を除き書かれていませんのでこちらもとりあえず問題なかったと考えます。
演習Ⅳ A	駒谷 真美	ゼミの卒論活動については、履修生4年生12名は個々に、3年次後期から4年次前期にかけて、インタビューやアンケートの調査や文献分析を行っている。この時期の4年生は就活期間中であった。統計分析や結果考察の書き方等に関する講義はゼミ全体、各ゼミ生の卒論内容に応じた個別指導をそれぞれZOOMで行っていた。アンケートでは、コロナ禍においても「双方向の工夫している」点を評価してくれ、自分たちの成長を実感できた」と達成感と肯定感の手ごたえを得てくれているのは、有難い。
民法概論	数野 昌三	2020年度「民法概論」の授業は、資料を提供し理解してもらおう方法を採用したため、配布プリントは、皆さんが多少努力すれば理解できるよう、長時間をかけ作成しました。そのため、理解しにくい部分については、各自調査し、理解できなければメールにて質問するよう、数野実践アドレスを示しておきました。 授業アンケートの中には、双方向授業を希望した受講生もおりましたが、来年度の「家族法」はZoomもしくは対面授業ができることを期待しています。
観光事業論	角本 伸晃	コロナの影響でオンデマンド授業となり、履修者の皆さんには大変不便をかせてしまいました。特に理論的部分は難しかったと思います。それでも問い15の総合評価で4.00を得たことは来年の励みになります。
流通サービス論	井上 綾野	Googleスライドや、人工音声の使用等で、わかりにくい・聞き取りにくい点もあったかと思えます。今後、オンライン授業が続くようであれば、それらの点も含め改善したいと思います。
演習Ⅳ A	竹内 光悦	なかなか提出率が低いため、無回答者の意見が気になりますが、提出者の回答を見ると比較的好意的な評価でしたのよかったですと思います。
商法概論	神山 静香	急遽、zoomによる双方向型の授業となりましたが、授業への満足度については回答者の80%超から肯定的な評価を頂き、授業の理解度については90%超の回答者から肯定的な評価をいただきました。また、授業形態について、双方向型の授業形態が相応しいとの回答が多く、大変嬉しく思います。ほとんどの項目で肯定的な評価をいただき、ありがとうございました。また、「資料がわかりやすい、チャットで意見を拾ってくれるのでとても楽しかった」、「対面授業と変わらなかったのが良かった」などのコメントをいただきました。今後も同様の評価を得られるよう、受講者の皆さんの意見を反映しながら努力したいと思います。また、次年度の改善点として、「復習の時間が長かった」とのコメントがありましたので、履修者が各自、自主的に復習できるよう教材等を工夫したいと思います。
ソーシャル・デザイン・プロジェクトB	標葉 靖子	アンケート回答ありがとうございます。オンラインでのプロジェクト活動というイレギュラーな状況ではありましたが、皆さんご自身の成長を少しでも実感されたとのこと、とても嬉しく思います。この経験を是非次の機会に活かして行ってください。
知覚・認知心理学	粟津 俊二	・全項目(学生自身の自己採点除く)の平均値が4.0程度以上であるため、授業方法等に特に問題は無いと考えます。
演習Ⅲ A	高橋 美和	対面ではなく、Zoomだということでもどいがあったことと思えますが、皆さん、しっかりゼミ・ワークに取り組んでくださり、たいへん充実していた、と私は思います。「質問力が徐々に増えてきた」「論文の探し方、読み方がだんだんわかってきた」といった、成長実感コメントに書いてくれた方もいましたね。レジュメを書くこと、わかりやすい発表、質疑応答、全てにおいて全員上達したと思います!
演習Ⅲ A	数野 昌三	コロナの中、コツコツ勉強を継続していくよう、ともに努力していきましょう。

**[2020（前期）人間社会学科 現代社会学科] 授業アンケート結果へのフィードバック**

コース名	教員名	教員からのコメント
演習Ⅲ A	竹内 光悦	なかなか提出率が高くないため、無回答の人がどう思われているかわかりませんが、とりあえず提出している人からはとりあえず好意的な意見が多かったのがよかったです。これからも頑張りましょう。
演習Ⅲ A	松浦 常夫	後期は夏休みの観察研究の発表を主にします。他の人のレポートをあらかじめ読んできてください。
演習Ⅲ A	吉田 雅彦	オンラインのため、当初 予定していたことはできませんでしたが、後期から、対面や上級生との交流で補っていきたいと思います。
演習Ⅳ A	高橋 美和	Zoomのみの演習となりましたが、すぐに慣れて、発表＋意見交換が昨年度と同様できていたと思います。就職活動が多忙になるなか、卒論の個人指導も併せて行いました。全員方向性が決まり、よかったと思います。
演習Ⅳ A	松浦 常夫	前期はリモートでやりにくかったですが、後期は対面なので卒論が進展するはずですね。
演習Ⅳ A	吉田 雅彦	前期は就活も授業も混乱したのでたいへんでした。 後期は卒論を仕上げないといけないので頑張りましょう